

## 蜜搾り あれ・これ

木村 公之

(NPO法人 人と自然の会 みつばち研究会)

みつばち研究会のメンバーの入会動機はほんものの「はちみつ」への関心とミツバチに親しむ(最終的には自分で飼う)といったところです。当然刺されることの覚悟とほんものの「はちみつ」への執着との葛藤の中でセイヨウミツバチ・ニホンミツバチの生態を顧問の大谷先生から教わってきました。社会性昆虫の世界の不思議さと秩序は驚きと感動の連続で触媒役の「はちみつ」は私たち研究会メンバーにとっても大きな存在です。

日本の食品自給率はカロリーベースでこれから5年掛けて40%にする目標を掲げています。

O-157、GMO、BSE、残留農薬等の問題から『食の安全』が叫ばれている昨今、食品・飼料の「トレーサビリティ」がEUから発信され世界から注目を浴びています。

ファーストフードの隆盛、学校給食の「餌」を食べている実態を見聞するにつけ日本の将来が心配でなりません。

はちみつ搾りの体験の感動を次の世代を担う子どもたちに伝えたい…その活動・事業のなかから2・3の事例を紹介します。

### 1. ひとつはくフェスティバル 毎年文化の日

ハチと花と人間の相互依存関係を説明した後(説明の中で採蜜を略奪と表現します)「はちみつ」を絞ります。毎年3~4月にセイヨウミツバチを1~2群業者より購入し、盛期で5万匹/群まで育てます(3段構成)。年間400瓶(115cc/瓶)を目途に250円/瓶で希望者に販売し予算管理をしています。

若いお母さんから「どうやって食べたらいいの」と聞かれ、一瞬言葉に詰まりましたが横から女性のメンバーの「美と健康に良いのですよ」との一言で一瓶お買い上げいただきました。



### 2. ひとつはくキャラバン 随時

開催1ヶ月前に現地に(適切な真所を事前に協議選考しておく)巣箱一群を設置し、地元蜜源の「MUSEUM HONEY」は好評です。

搾り現場(集会室)は「はちみつ」の濃厚な香りで一杯になります。「コレ臭い…」と言って鼻を摘む子ども達があります。初めての香り体験では特別なことではないとのことですが…。



### 3. 民間有料老人ホーム 随時

老人ホームは、地元では疎まれる施設です。公民館・子ども会を通してイベント参加者を募ります。入居者と子ども達とその保護者の三世代、施設のスタッフと私たちが入り混じっての理科教室の様相です。孫たちと「はちみつ搾り」を通してのコミュニケーションは入居者に元気を与えダイバーショナル・セラピー（D/T）\*のひとつになるのではないかと考えています。地元と施設もお互いに親近感をもつようになりました。



\*30年位前よりオーストラリアで認知症ケアに有効とされる「気ばらし療法」。エクセサイズ・クラフト・コンサート・ドッグ（ペット）・ドール・ミュージック等があります。

### 2006年活動報告

- 1月 三田市子ども環境セミナー 第1回共生のひろばの準備
- 2月 5/三田市子ども環境セミナー（オオスズメバチの封入標本づくり）  
11/第1回共生のひろば
- 3月 19/フィールドの清掃  
25/ミツバチ（交配種）2群到着・開放
- 4月 1 2 8 16 2 29 内検  
1/ボイスメール取材  
26～27/分封 29/3群  
26/三田保険所「仮店舗」手続き（5/7たんぼぼ喫茶）
- 5月 6 11 27 内検  
7/たんぼぼ1喫茶 12/ニホンミツバチ捕（切畑）  
27/ひとはくセミナー協力「家族で体験はちみつ搾り」① G03
- 6月 10 17 24 内検  
24/ひとはくセミナー協力「家族で体験はちみつ搾り」② G06
- 7月 2 9 30 内検 15/ドリームスタジオ準備  
16/ドリームスタジオ #111「みつばちからの贈り物」  
30/三田市子ども環境セミナー「はちみつしぼり」
- 8月 6 17 25 内検  
23/ひとはくセミナー協力「ハチに関する誤解を解く」 C21
- 9月 9 内検  
18/搾り 23/研修 オオスズメバチ対策（ネット） 24/オオスズメバチ対策  
30/搾り事業「はちみつ搾り」（境市） オオスズメバチ対策（ラットホン）
- 10月 2 6 オオスズメバチ対策（ラットホン）  
8/研修「花粉」 29/搾り
- 11月 フェスティバル（MUSEUM HONEYの販売）
- 12月 17/ドリームスタジオ #117「ミツロウでクリスマスキャンドルづくり」（サイエンスショー）